

試行の状況及び結果

1. 試行の実施状況

1) 試行期間

平成16年11月1日・2日・4日5日

2) 撤去量等

	撤去量 (トン)	車両台数	使用車両
11月1日	26.50	3台	天蓋車両 (12.5トン積)
11月2日	32.70	3台	"
11月3日	35.14	3台	"
11月4日	35.84	3台	"
合計	130.18	12台	

3) 緊急時情報伝達試験

11月4日に緊急時情報伝達試験を実施し、緊急時の関係機関への連絡が、マニュアルどおり行われたこととその所要時間を確認した。

4) 試行状況の視察

試行の初日(1日)に田子町民及び青森市西部地区住民の方々を対象として、不法投棄現場における廃棄物の掘削・積み込み、不法投棄現場から処理施設への運搬、受入先での荷卸し等の各工程の視察を行った。

2. 試行に伴い実施した調査内容及び結果

- 1) 撤去作業現場の有害大気汚染物質調査
- 2) 運搬車両運行経路沿道における騒音・振動調査
- 3) 中間処理施設の排ガス調査及び周辺の水質調査
- 4) 運搬車両荷台のガス濃度(ベンゼン、ジクロロメタン)調査

【運搬車両荷台ガス調査結果】

(単位; ppm)

	天蓋 測定位置	ベンゼン			ジクロロメタン		
		積込時 開放	荷卸前 閉鎖	荷卸時 開放	積込時 開放	荷卸前 閉鎖	荷卸時 開放
		荷台上	荷台脇	荷台上	荷台上	荷台脇	荷台上
11月1日	1台目			5			
	2台目	不検出		不検出	不検出		不検出
	3台目			2.5			
11月2日	1台目	0.2		2.5			
	2台目	不検出		2.5	不検出		不検出
	3台目	不検出		2.5			
11月4日	1台目			2.5			
	2台目	不検出	不検出	5	不検出	不検出	不検出
	3台目			2.5			
11月5日	1台目			2.5			
	2台目	不検出	不検出	2.5	不検出	不検出	不検出
	3台目			不検出			

試行における運搬車両の運行状況について

1 運搬車両の出発・到着時刻と所要時間

	11月1日(月) (第1日目)	11月2日(火) (第2日目)	11月4日(木) (第3日目)	11月5日(金) (第4日目)
(往路) 青森市・青南エクス プレス 出発時刻	7:00	8:00	8:30	6:00 (途中待機35分)
国道4号・川守田交 差点 通過時刻	9:51	10:48	11:18	9:10
川守田交差点～現 場 所要時間	(39分)	(38分)	(38分)	(40分)
田子町・不法投棄 現場 到着時刻	10:30	11:26	11:56	9:50
全体所要時間	(3時間30分)	(3時間26分)	(3時間26分)	(3時間15分)
平均所要時間	3時間25分 (うち川守田交差点～現場 平均39分)			
(復路) 田子町・不法投棄 現場 出発時刻	12:14	12:59	13:30 (通報試験7分)	11:13
現場～川守田交差 点 所要時間	(44分)	(40分)	(42分)	(42分)
国道4号・川守田交 差点 通過時刻	12:58	13:39	14:19	11:55
青森市・青森RE R 到着時刻	15:57	16:32	17:26	14:52
全体所要時間	(3時間43分)	(3時間33分)	(3時間49分)	(3時間39分)
平均所要時間	3時間41分 (うち現場～川守田交差点 平均42分)			

(注)・所要時間は、運搬車両の3台目(4日復路は1台目)を追走して確認した時間である。

・復路は、平内パーキングに停車して積荷点検を行った時間(5～8分)を含む。

・4日の復路は、途中の緊急時通報訓練の連絡に要した時間(7分)を除く。

・5日の往路は、国道104号を午前9時以降に通行するため、三戸町相内パーキングで駐車していた時間(35分)を除く。

2 マニュアルの記載事項以外で点検・改善等のために行った対応

- ・運搬車両が容易に識別できるようにするため、車体の前面と側面に黄色の表示を行ったが、ライトの常時点灯とあいまって視認性が高まった。
- ・人家が連なって道路に迫っている箇所、歩道の狭い箇所、見通しの良くないカーブや交差点などは、制限速度以下の走行から更に減速するなどの安全運転の徹底を指示した。また、大型車とのすれ違いの際に一時停止することが安全な運行に効果的であった。

3 試行実施による課題等

- ・運搬車両のグループ化を行う趣旨を踏まえ、また、後続車両の渋滞対策として各運搬車両の車間距離について更に調整が必要である。
- ・制限速度から大きく減速して走行することがあることから、後続の一般車両の注意喚起のための表示が必要である。

緊急時情報伝達試験の結果について

1 実施目的

産業廃棄物撤去作業中の緊急事態発生を想定して、緊急時対応マニュアル(案)に従い各連絡先へ情報を伝達し、連絡系統等マニュアルが良好に機能するかどうか点検するとともに、各連絡先までの伝達所要時間を把握することを目的に行った。

2 実施日

平成16年11月4日(木)

3 実施方法

3台1組で走行中の廃棄物運搬車両の1台が、県道道前浄法寺線(携帯電話の通信圏外)で路外へ逸脱したことを想定して、同一グループの他の車両が上郷地区まで降り、公衆電話で運行管理センターへ通報した。

運行管理センターからの連絡をもとに、県境再生対策室から各関係機関へ、連絡票によりファックスを用いて一斉送信した。その後、全機関に電話し、各機関において連絡票を収受し内容確認した時刻を聞き取った。

4 試験実施機関

緊急時の連絡先としている全ての機関(79機関)

5 実施結果

時刻	内容	事故発生からの経過時間
13:37	想定事故発生	-----
13:44	消防への通報を想定した対策室への連絡	7分
13:45	警察への通報を想定した対策室への連絡	8分
13:48	運行管理センターから対策室への通報	11分
13:56	対策室からのファックス送信開始	19分
14:00	最も早い、伝達先でのファックス収受確認 (送信開始から4分後)	23分
15:18	対策室からのファックス送信終了 (送信開始から1時間22分後)	1時間41分
16:40	最も遅い、伝達先でのファックス収受確認 (送信開始から2時間44分後)	3時間03分

6 実施結果を受けての課題

- 今回の試験では、当室のファックス送信機1台により行ったことから、送信を開始し終了するまでに1時間22分を要した。このため、他課の機器など複数機を用いて一斉送信に要する時間を短縮する必要がある。
- 連絡先が不在であったり、当室から電話して、ファックスの受信に気がついたケースもあったため、重大な事態にはファックスと電話等を併用するなどの方法も必要である。